



『From7 第43回 歯科衛生士 Meeting』

日時：平成24年2月1日(水) 19:15-21:00

場所：白鳥歯科インプラントセンター2F 研修室

演題

1. 【アメリカの歯科事情】

歯科医師 成田 美栄・成田 真季 (Narita Family Dental:ロサンゼルス開業)

『歯科治療全般の理論・概念の多くは欧米から来ており、学会、講演、歯科雑誌やジャーナルを介して学ぶことができるが、それらが確立された背景には、例えば、歯学部への入学、スペシャリストになるための道のり、歯科医師免許の更新制度、アメリカの保険制度、医療訴訟の実情等の仕組みやシステムの違いがあり、それらは意外と知られていない。知られていても誤った認識や誤解だったりもする。歯学部は通常の4年制大学を卒業してから受験し、スペシャリストになるには高い競争率の受験がある。歯科医師免許は更新制で、法律で定められた履修時間と単位がある。アメリカの歯科保険は政府発行のものもあるが、企業や個人がたいがい一般の保険会社に参加する。歯科医師は医療訴訟や医療過誤用の保険に参加することが義務づけられていて、かなり高額である。患者さんのプライバシーを守る為の法律は厳しい。アメリカと日本の歯学部を卒業し、アメリカと日本の歯科医師免許を有し、そしてアメリカ・カリフォルニア州にて歯科医師・開業医として約20年の経験を経て、様々な角度からアメリカ歯科事情の現実についてお話したいと思います。』

2. 【インプラント部のホームケアとプロフェッショナルケアについて】

歯科衛生士 栗田 聡子 (白鳥歯科インプラントセンター)

『インプラントを良好な状態で長期にわたり維持していくためには、継続したメンテナンスとホームケア、モチベーションの維持が必要不可欠である。今回は無歯顎でブリッジタイプの固定性上部構造を装着した方のホームケアとプロフェッショナルケア、及びモチベーションの変化について症例を通し、もう一度検討したい。』

3. 【5年経過症例への一考察】

歯科衛生士 磯川 律子 (白鳥歯科インプラントセンター)

『治療を行うにあたって、患者さんを多角的に診査診断し、患者さんと共に医院がチームとして治療を進めていくことが重要だと言われています。上顎臼歯部に腫れや痛みがあり、骨が薄いので義歯にするかもしれないと言われて来院された患者さんを通して、私たちは何をすべきであったのか、もう一度考え直してみたいと思います。』